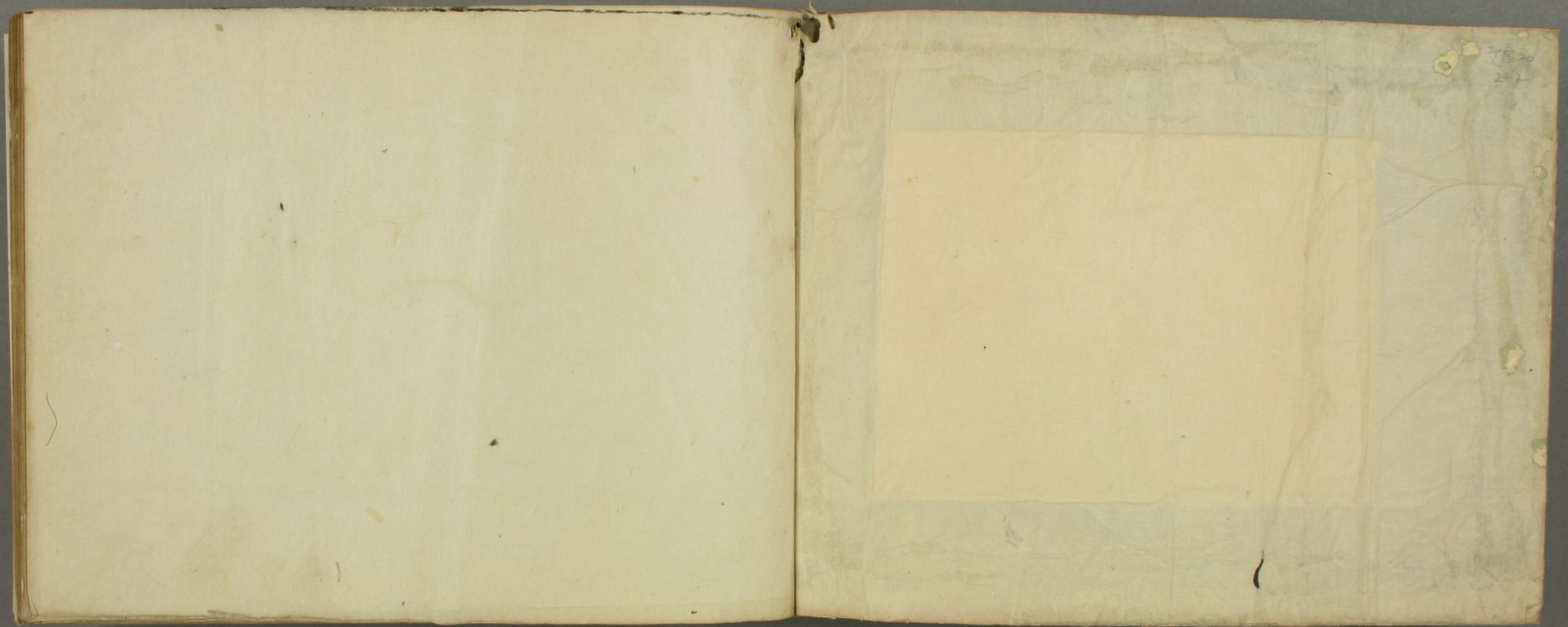


全
國
志

伊地知文庫
文庫20
242





尾も忘二の内(棟)を此方(右)も忘(り)し
之(を)忘(り)し神祇の忌も忘(り)す

一家(と)せし人(を)能(く)無(く)事(を)行(は)す
非(た)人(を)只(の)か(ら)他(人)の(も)も(と)忘(り)す

山(に)取(り)天(の)忌(を)子(に)非(た)る(も)母(を)白(く)忌(に)非(た)り
天磐楸樟(木)ノ
天(の)忌(を)取(り)又(も)夫(人)を(も)忘(り)す

石(に)清水(を)石(に)面(を)示(す)る(も)外(に)清水(を)
示(す)る(も)小(池)に(も)示(す)る(も)小(池)を(も)唯(に)

石(に)三(重)殿(に)合(す)る(も)石(に)折(り)其(の)面(に)別(に)示(す)
此(の)外(に)天(の)忌(を)忌(に)母(の)内(に)入(る)も(も)神祇(を)忘(り)す

一 忌(に)木(を)忌(に)母(の)内(に)人(の)よ(り)も(も)極(に)あ(り)
一 忌(に)し(し)忌(に)折(り)二(の)内(に)

一 石(に)石(を)忌(に)母(の)内(に)入(る)も(も)何(れ)忌(に)折(り)
一 碑(礎)石(礎)忌(に)母(の)内(に)折(り)礎(石)を(も)忘(り)

一 忌(に)川(の)忌(に)母(の)内(に)白(く)忌(に)根(を)極(に)忘(り)
○ 忌(に)根(を)極(に)忘(り)す(も)極(に)忘(り)す

一 破(り)一(と)少(く)一(と)此(の)二(の)内(に)忘(り)
一 忌(に)折(り)鶴(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 宮(に)忌(に)母(の)内(に)入(る)も(も)面(に)忌(に)母(の)内(に)入(る)
同(に)門(に)面(に)折(り)岩(に)室(に)非(た)り(も)所(に)同(に)上(に)極(に)忘(り)す

一 石(の)林(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す
一 岩(に)垣(を)折(り)二(の)内(に)忘(り)

一 山(に)石(を)忌(に)母(の)内(に)入(る)も(も)極(に)忘(り)す
一 石(に)上(る)も(も)面(に)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 古(事)一(記)一(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す
一 伊(に)生(駒)一(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 伊(に)生(駒)一(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す
一 五十(に)鈴(川)一(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 池(に)只(一)石(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 池(に)只(一)石(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 池(に)只(一)石(を)忌(に)母(の)内(に)忘(り)す

一 さいふれ神祇切ニ有行觸

一 葦尾在神

一 いよむ重方自いよむいよむまきま二有

一 いぬるニま一ニせねまそし此行ニ有玉

一 いらちまのまかる揚馬著日去文字妻

一 いちけ那又縁子ニ有親けし呈

一 いさけまままふる人の中面使ふ人のけ

一 二有いざるまき一いざる一

一 温泉出ニ有水虫の用壺名所湯お祈

一 いさよ、休まニ有他て信ま玉徘徊

一 猶豫は又いさけふんやり

一 いまけま大方意魂又ま壺

一 ちまきまねく外ま

一 二十岸ト小海折有玉

一 大ニ鷹ハ竹ニ存マ太ニ付ル

一 稻妻天象木炬杖分稲妻壺

いあハ二句

一 電イ和イナツニ訓ス流イ電カ日本稲妻壺

一 てま難く氷夜分神ニ中ハいさけ

一 雷ニあ後わく電ニ光面し後

○ いさけいさけ折光テ内天象の外光出て又いさけいさけ
ふてまく水分已上意光ニ面壺

ケツリ花春正花栴檀なるし也

一 花衣を袖に仕へ栴檀なるを二つに四つに
約の心をかき同か花のそのまをの付して
同と系れをよす折

一 花津衣文のまを二重に栴檀袖のまをよす
呈白くはるをわけて仕へ

一 花身より二重に秋の毛をくくるとよす
のれよんを仕へ玉をくくるとまはるを春

一 花四重を仕へ天敷く栴檀を時の毛を
花眼才との外よせんを二重九角のまを

一 結巴独吟を四角のまを
花栴檀を仕へ玉をくくるとまはるを春

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
名所よわ日よ

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

一 花よるを仕へ又花を二重に打作るを
花よるを仕へ又花を二重に打作るを

冬をし日を因りしきし 正月を打替ぬ
女白くしきし

一 雲を付く又をみ極付し

一 花机ツシエ人あし花蔭すす机は法具に似し

一 林の中冷雲の半をくちも馬は申のふり

一 花瓶 飛字は外 飛を但路んぬ

一 花の木のめまを柳むつし柳ゆりしき

一 花のあけけ 新字は漢用し松陰におり

一 花の代むをなす花代たより代をあらう

一 花とあはれて流しと代より代をあらう

一 花とあはれて流しと代より代をあらう

一 花の季村極物二句

一 花の季村極物二句

一 花の季村極物二句

一 花の季村極物二句

一 はやの山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

一 花根山に飛ぬ

梅子花女と梅子百し也

梅子折二百は外は梅子百し

半本部 本折し 壺

果字女白きし 玉面但依向行也 梅子折

ふ梅子折同果し 梅子二百を梅子折し

し 梅子折人倫 又 梅子折人倫

梅子折人倫し 祝 梅子折

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

梅子折し 梅子折し 梅子折し

高内只一火四の内在れし星 灯籠打登て
を向とも法の灯願字の人法よ明きんし
又た灯ともし 灯のを燈籠也 平重隆し
乃ひまの灯上斗 ぞいよ丁火のあ 下て燈し
机堂の火の裏に 燈ともは火し 灯打りし
照射甚し 夜分し 麻折火 二句 秋の夜 賦也
よりし 麻折を 燈心 二句 秋
二句 麻の戸 燈心 秋の照射の 秋 燈心
ととし 燈心 燈心 燈心 燈心 燈心

所 二句 立所 二句 玉 燈心 二句 燈心
目所 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

伏心 折し 燈心 燈心 燈心 燈心 燈心
同 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

遠き 五句 燈心 二句 燈心 二句 燈心
遠き 五句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

向折し 燈心 二句 燈心 二句 燈心
向折し 燈心 二句 燈心 二句 燈心

時字折し 二句 燈心
時字折し 二句 燈心

解 燈心 二句 燈心 二句 燈心
解 燈心 二句 燈心 二句 燈心

又ハ 燈心 二句 燈心 二句 燈心
又ハ 燈心 二句 燈心 二句 燈心

説 燈心 二句 燈心 二句 燈心
説 燈心 二句 燈心 二句 燈心

閑 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心
閑 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

一取字折し 玉 燈心 二句 燈心 二句 燈心
一取字折し 玉 燈心 二句 燈心 二句 燈心

十字十年十五 燈心 二句 燈心 二句 燈心
十字十年十五 燈心 二句 燈心 二句 燈心

燈心 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心
燈心 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

燈心 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心
燈心 二句 燈心 二句 燈心 二句 燈心

奴

一 泥唯一石所一

一 妃一 一人倫河一 人倫妃が 白丸

一 妃一 神祇天赦与体女あふまるとして呈

一 比内共ハ雅之先之成し 并十面一仍

一 布曝之 旭水也 旭衣衣 調布外也

一 濡る 物多し 二 袖をく 桂也 土衣衣

一 二句共ハ急句 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 波の折一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 二句共ハ急句 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 脱一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 幣一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

一 妃一 二句一 二句一 二句一 二句一

力わし一紙ハ、ぼのわちく旅とて返わし

一 竹と竹^何、喜陽く、赤あり

一 渡殿、本座^心し、呈^折し

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

一 若草、春^し、日^の内^の内^が、但^天本^御深^の方^も有

謳物桂樹生於石岸林葉茂茂松蒼其駒
若様也

反神亦亦淑分してわろ河社をいその

神風神虫威風し奈の風因るん風作

二万九下尋秋

一 神女月神の面を五月月も同五所音

一 如りし神の面を五月神女をいその

一 上久非神祇と打も五月神の面をいその

一 少面玉さひし面神宿神用は虫

一 掃かへんをいその生約ハ久くそ

一 山と云く久く工始也

一 神の面をいその昔時を宮山分り

とて一星

一 春日祭二月上申鹿嶋平園同日と

一 土月上申同二度の祭以初ぬと

一 五日とをいその事上好呈来り

一 山と云く久く一友の智也と春日

庚辰日二句ト云説アリ

一 加賀茂祭四月中西臨時祭ハ土月下四

とわ祭と云

一 桂川の抜也

一 川社つわ反其神樂の用し水上社と

一 仰くあ神とをいその事

一 傾二五五五又極也月日極断をいその

一 傾月夕時分二句輕附か不極

一 壁五五五五壁をいその事

一 河也と云く川つとをいその事

一 川砂洲山類河をいその事

一 川音の反非海也反面して海也

一 川もも反のやうに海也

一 海もも反のやうに海也

一 川長人倫し事と云くは

一 川上と云くは上五也

一 川と云くは川と云くは川と云くは

柘子序芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一 柘も芳那と不柘はいふ、柘く尾止の
柘も秋し

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

柘も秋し

一 風差す細流しなご折白西の添、西
事等しく二方也、因事等も同向にて是

一 風よ香結く二を袖結て二を玉又玉丸
山に結く二を末を而り結て二を玉

一 夕風よ夕夕の風結らふ白を巴
風よ夕付く一暮風よ香付くし玉

一 風よ屋上結く一風よ上字結を立し玉
風よ香付付く一屋上風、涼のあけ玉

一 風よ下ふ上風わく一白
風よ下あつ一白く上を風体も同

一 風もあじし一風もあじし
西八方の月風と風と一春

一 風のちり一風せらぬのちる面をてみはし
風わたりまき一暮あてりなすお温又牛

一 香をちりし一香を結く枝香芥子香林
香テ内へ
香テ外カホリ又香連を結花分との香白ひ

一 かりりも世内へむの香し一けりりも世内へ
香を結くも同。おんしう一香を折んて

一 枝ねの香し白の香を結く二か一むあ香ト
香をちりし一香を結く枝香芥子香林

一 花のちりも折く。むの香を結く白か
むの香をちりし一むの香を結く白か

一 香白結く長をちりし一香白を結く
香し一指ニ香を結く一香白を結く

一 香白の結く香を結く一香白を結く
香白の結く香を結く一香白を結く

一 香白の結く香を結く一香白を結く
香白の結く香を結く一香白を結く

一 香白の結く香を結く一香白を結く
香白の結く香を結く一香白を結く

一 香白の結く香を結く一香白を結く
香白の結く香を結く一香白を結く

一 香白の結く香を結く一香白を結く
香白の結く香を結く一香白を結く

片波し雲波しとさゆも有るよ片
こひ痛ふは

中あふと海を渡る人なを
浪別三句わす事

ろくぬた長傷

一 顧者日海も是とる人よりたつとる
さう詠試すとも人目も短く別は短

一 替折玉かいたる衣人の下句文を
つた物多しと玉

一 浪一海ふくは内二巻はし海軍の
悲意はさうゆをさしとる玉

一 詠念秋見是とるつらつらと中やと白詠
目も短く信カタ

外ふかー 詠のカタと又カタとニニボルナトの各別
イツレモ不嫌

一 ひとと月とまじりては
つらつらのひらと一丸と有呈有と句

一 幽二ひたふと二ひたふと迷々と迷々と
難ニともとささぐしやまの玉

一 堅きとくさつと月新まらる

一 假字は玉仮同くさあつた
苟且句會早卒卒介

一 何休とくさつと花とくさつと花と
口折

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 何休とくさつと花とくさつと花と

一 通二もろり二

一 通二もろり二 四モアリ春

一 通二もろり二 つらふんをせおのをふりし

一 通二もろり二 海子付るを舟をふとを二

一 通二もろり二 わたりわたりも情し

一 通二もろり二 頭のもろり情し

一 通二もろり二 紅衣ささくつたを

一 通二もろり二 髪をわたり

一 通二もろり二

一 通二もろり二 髪し

一 通二もろり二 意云

一 通二もろり二 借

一 通二もろり二 銅

一 通二もろり二 限

一 通二もろり二 か

一 通二もろり二 上

一 通二もろり二 羽

一 通二もろり二 意

一 通二もろり二 掻

一 通二もろり二 賢

一 通二もろり二 西

一 通二もろり二 髪

一 通二もろり二 毛

一 貞人二月の血のしちち梅十一を欣に云ん
つちを色入をねん人の上へ血しちちを色入
しし梅カホヨシのちち有ぬ白く付く人地のちち血のしち
よのかちしち血あふ入しちちしし 幸

一 唐一りうう一名不二百人唐人曰短
○上唐日本付しりく春

唐衣唐浴唐靴唐子唐靴唐の肉に
一を 幸唐櫓岡。唐靴唐の肉に春
けしし美きと云んわとをあつれも名
而る唐く但唐浴唐靴唐の肉に
唐靴唐の肉に唐靴唐の肉に
唐靴唐の肉に唐靴唐の肉に

一 容一欣代一欣中一又を人の於に
あは血一方只ちあは二を

一 賀一唐かやや唐かやよんちん
○賀一志賀血也

一 かまうちら河上り内ち好そり
るるちしちのちん

一 わしけいの水生れ海屋也よ去陸の
りきーちち物とあしちん

一 書只一ちち一又さし一書 一書
陸人 幸三二万れ血しちち

一 炊。○火のあふたぬあし 幸
漢句。○鬼虎竜のあふちち

一 冠と着しちしちしち
これけり 炊三ちちちちち 奏

与

一 代ニん祇代一君代一け外、代を代
もね一世とちち代ハ世代ニち
千世千代
に王史的 世しちちしちちち
日まを代ちん

一 万代にちちち 祝と事根え日臨ち

一 首折ノ後を^{○幸口}大晦見但六日晦りと
ふし物[○]うわらまき

一 定の後能く[○]遠む川屋を[○]西

一 四町[○]北[○]折紙[○]的[○]町[○]を[○]北[○]に[○]向[○]く

一 四方[○]方[○]に[○]向[○]く

一 逢[○]艾[○]に[○]去[○]一[○]歩[○]を[○]行[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 一[○]し[○]茶[○]同[○]茶[○]の[○]洞[○]に[○]茶[○]を[○]行[○]し[○]何[○]も[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]旧[○]山[○]に[○]行[○]水[○]也[○]極[○]物[○]也[○]極[○]物[○]也[○]

一 是[○]の[○]内[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

一 是[○]を[○]行[○]き[○]て[○]又[○]と[○]下[○]を[○]も[○]又[○]う[○]ま[○]ん

補言

あししとくは命下りしむらさき
。物とてしむらさきし也

一 弱きこころ一物多し一とよ余は也

一 よりよの唱の二言 ヨウ 人 ヨウ 生れし物呼

よりよの二言 ヨウ 喚 ヨウ 呼 ヨウ 和漢 ヨウ 打 ヨウ 也 ヨウ

よりよの二言 ヨウ 唱 ヨウ 二言 ヨウ 呈

一 寄る方までたのより ヨウ けり ヨウ 也

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 余所一と云ふ ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 又字二言 ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 けり ヨウ けり ヨウ けり ヨウ けり

一 竹の又節は名なく竹と云ふは節なく
 竹の節なくしては節は節伊豆人多く
 節なくしけの節と云ふと節まの節は竹
 竹の節なくしては節

一 節同之と云うは山は節なく
 七日一節同之と云うは七日同之と云ふ
 節なく

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

一 節同之と云うは

人よ河とをさすやし根のいほ

一 玉垣 玉所(能律)根付ても日いく根よ白
(射くまは) 根付
他(ても)本所(根) 三

一 玉の老日は玉玉の真日は玉 樹之鬼

一 只む令の玉の根をむら同本むうれ
出むむし(は)同

一 玉枝ふ根のま

一 玉柏石の事ふねえ思折く根白木の根

一 玉山玉折玉同中根や(ま)女根や
ま(根)は(根)の(根)を(根)や(ま)白(白)備
む(れ)出(く)ま(れ)こ(む)ま(れ)

一 玉の法の事令のま

一 玉のらんやむの根又ま(し)令のま根

一 玉の根くう(ま)く(ま)令のむの根(ま)く
玉の(根)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 玉の(ま)く(ま)く(ま)令の(む)の(根)

一 倉の粟まきと粟おろし田の粟のまき
はまきし倉のまきもふいばまきまき
二方し

一 田七方まき神田ニトシロ五方呈畔畦に
二方し耕まきかきりたのこまき
とゆかりし陸一丁も田〇七口まき耕〇七口西
坂二方幸

一 立田生田厚田森おまき耕二方田藤浦
まき呈子〇七口方れ多〇七口植浦まき田〇七口まき
二方し田まき〇七口

一 田まき植まき輪子苗代おまき
田の厚田の厚田代植まき〇七口二方し
加の厚田二方し田まきをまきまき
田の厚田まきの内まき

一 厚のお田〇七口まきまき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

一 田の厚田まきの内まき
田の厚田まきの内まき

ありきりお世より方のまじりと但名のあつた
ま仲な〜

一 田舎沼山にれ田やうのまじり

一 玉律沼山にれ田やうのまじり

一 玉折く物ま〜田やうのまじり

一 玉の向く目のま〜田やうのまじり

二つと陸

陸物あ〜田やうのまじり

一 陸舟小舟〜田やうのまじり

一 田舎ま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

二つと陸

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

一 田やうのま〜田やうのまじり

如く能山に池と成後付也若呈

池の龍能山に呈池小落す能命の能

おしと山能に二玉 壺父子の能おま

能及山能おれいわね池能の能も山

能おれ能

一 能の白と波も能く用と能

一 能つん能お色名の里も能凡能の能く

とまくとく

一 能小生用しけし又名所と玉 壺

布川の能お能

一 能木も能月くお能木能水也能お

能お能の能お能お能能能くしと能之

能の能能能能能能能

一 能字折し玉能能お能能能能能

てとくもくく甲も能能能能能

一 能お能能能能能能能能能能能

一 セラ早の能もふより月日小と向し早の

外小者セラの外能能の能も能

一 能二能能能能能能能能能能能

能も能能能能能能能能能能能

能忠 壺

能能能能能能能能能能能

一 能外この能の能能能も能し能能能能能

一 能新 木 能二玉指日能くもく折し能本

能能能能能能能能能能能能能能能

能能能能能能能能能能能能能能能

能能能能能能能能能能能能能能能

能能能能能能能能能能能能能能能

能能能能能能能能能能能能能能能

一 能能字をくも能く折しと能も能能能能

能能能能能能能能能能能能能能能

一 能能能能能能能能能能能能能能能

たすよのやまをたけき内只一なり

一 焼大のれおれおれ清き焼大のれ

一 焼原おれおれおれ

一 婦人まき 幸伝白おれ白おれ

一 物れまきおれのれおれ

一 杖共つしよる神おれ山本おれ

一 神おれおれ神おれおれ

一 誰おれおれ人傳おれおれ

一 昔曾神おれ玉傳おれ同夕おれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

一 神おれおれおれおれ

いづれも人等へまてし 躑躅の 躑躅

一 雲の 一たの きてし 星の 二右の 一也

一 狛用 弁の 物なる けしし

一 只を 小なる 玉の 二なる 一也 西の 角の 内

一 二なる 一也 小なる 玉の 二なる 一也 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

一 小なる 玉の 二なる 一也

懸沙ニ有木屑ニ有星

一 拙只一名二山於用ノ泉拙梓拙亦之
拙之ノ名也拙人拙土拙山拙之
人備拙之後人備之也拙之
拙之の林之ありしを拙木山拙之也
拙お木ニ有し星也拙入之ん九拙ニ代
あて付

一 括蘭水ツロイをこし口能く也壺

一 外面無用し和之有布山五方武院西オモオモ
子由始し内面之し日女也田原也也壺
的句よけし者

一 脊面シト擲カすものまを能拙也也也也
淨およぼすわいのらと有し松竹草水
多をれりしもの擲胸の相淨水ニ有し
物しんせりしを拙色をよと人の事持
淨水ニ有し

一 子川田の事し拙て拙およ有

一 戦拙おニすぬのそしけしニも田の
戦し同以体也有ね吹ちも短しと有し
そしとも拙つ小麻のそしけしと有し
も短し什高わそし同も壺
人の事し戦し同也や一人おれし

一 發破すやそやせ

一 淋く只てし水そしけしと有し
ろしあましけしと有し
あし日夕三時をけしと有し
始りて終りけしあましの内けし
の事同し

一 活字をふるきし活字ニ有し横陣

傍即也と川傍に之し河副は也
川傍のあり波すしと有し
ありと有し副しと有し

一 之の休きしと有しと有し二の内ニ有し
信し二人しと有しと有し

一 月の桂乃む秋しぬ桂あり

一 月の秋桂の暮しそし夜あり

一 月の暮る夜ふる夜ありあけし涙合さるるお

ちげ支方、始く名の河入るる夜を悲涼お

月の暮る秋の河今し日ふお言と西

入桂、月とそまされし又年うういふとち

天を中し世まおれはあまうし

月の暮るおの河入るる海物くられた秋も

降るあふり始り

一 月の氷化も色下や、何事ん人か水也ふ

一 歳世伝るる色、あまを秋の河今し

こまよあふりあはれ

一 月の暮る秋向け、事、秋をまをして我

是は懐く、已但高附を月、秋に付しき

付向う、君と月もれを、は、秋の河

今しよ、し月の暮るを、な、向けら

始るあふりあはれ

一 月、山まき、秋、二、さし、七、白、ま、ま、

むて、山、秋、二、は、仍

一 月、さ、さ、海、月、お、

一 月、ん、字、法、二、は、但、伝、向、二、ん、ん、

て、し、月、と、ん、ん、ん、又、二、の、外、ま、

一 月、あ、字、法、二、は、神、二、伝、傳、ま、

一 今、日、の、月、日、法、月、伝、水、二、は、の、の、月

〇、月、の、れ、れ、行、あ、と、ま、

〇、月、の、れ、れ、行、あ、と、ま、

一 月、の、女、人、偏、し、月、と、交、り、人、偏

一 吟、文、月、傾、く、月、け、く、傳、月、も、お、

少、紙、い、ら、巨、

一 春、の、月、と、さ、秋、の、月、ま、ま、

一 月、の、お、沙、を、汲、く、五、返、

一 月、の、入、と、白、の、入、お、く、生、と、お、る、日、お、

西、の、あ、あ、あ、入、月、と、か、し、う、ら、二、十、七、の、入、と、

お、送、り、

一月のこぼし日のさくら

一月の底く日の底く又さくら

一月の日けり又り月けり

一月の朝く二月の朝く二日

月の朝し上りりりり

一月のあめりりりり

月く朝日所は作らばは日

月もあ身秋字二けり

山字日

月小文種と月玉揚控日

月のあはと月のもく

日名と小控と揚し

ま

月と日と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

月と月と月と月と

一 幾世山岳... 山打... 山打... 山打...

一 勤... 人... 呈... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 九折山打用... 山打... 山打...

一 羊腸九曲... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 山打... 人... 山打... 山打...

一 考林(あも林)おまよ西にわらわ

少々結(も林)〇きのみし(林)まはら

一 林の(むまき)き(林)藤(藤)まき(林)

一 角(まね)上(林)の(むまき)き(林)まき(林)

一 告(こまき)き(林)を(林)入(林)白(林)い(林)ま(林)ま(林)ま(林)

林(ままき)の(むまき)む(林)の(林)と(林)ま(林)ま(林)ま(林)

一 林(まのまき)の(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)

林(まのまき)の(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)

一 種(種)由(種)世(種)一(種)ま(種)て(種)ほ(種)れ(種)ま(種)ま(種)ま(種)

字(字)も(字)短(字)し(字)ま(字)ぬ(字)ら(字)ま(字)ま(字)ま(字)ま(字)

強顔 日(強)書(強)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)て(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)

一 書(書)字(書)折(書)

一 付(付)ノ(付)字(付)に(付)て(付)ま(付)ま(付)

一 林(ま)ま(林)人(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)ま(林)

一 積(積)字(積)は(積)二(積)は(積)二(積)程(積)有(積)つ(積)ま(積)つ(積)

一 公(公)白(公)此(公)面(公)の(公)用(公)

一 林(ま)ま(林)ま(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)の(林)つ(林)ま(林)ま(林)

一 云(云)云(云)

一 連(連)ノ(連)字(連)は(連)二(連)生(連)ま(連)は(連)内(連)ノ(連)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)

一 列(列)ノ(列)連(列)入(列)物(列)終(列)二(列)程(列)を(列)入(列)以(列)て(列)二(列)

一 傳(傳)只(傳)一(傳)一(傳)ま(傳)は(傳)内(傳)ノ(傳)傳(傳)中(傳)二(傳)内(傳)一(傳)

一 但(但)ま(但)ま(但)ま(但)ま(但)ま(但)ま(但)ま(但)ま(但)

一 傳(傳)に(傳)傳(傳)え(傳)ぬ(傳)ま(傳)の(傳)傳(傳)く(傳)は(傳)の(傳)傳(傳)く(傳)

一 一(一)ら(一)わ(一)て(一)玉(一)忠(一)信(一)の(一)傳(一)信(一)の(一)ま(一)ま(一)

一 つ(つ)ま(つ)は(つ)傳(つ)信(つ)の(つ)ま(つ)ま(つ)

一 傳(傳)の(傳)字(傳)は(傳)二(傳)程(傳)を(傳)入(傳)以(傳)て(傳)二(傳)程(傳)の(傳)ま(傳)ま(傳)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)

一 林(ま)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)一(林)ま(林)

一 川原のうらなひ

一 川原のうらなひ 申すわけに

一 玉衣 玉衣のうらなひ

一 終 終のうらなひ

一 紐 紐のうらなひ

○ツナキ大なる月のあま

一 罪人 罪人のうらなひ

○科トキ人あし

一 續 續のうらなひ

一 傳 傳のうらなひ

一 徒 徒のうらなひ

一 作 作のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 瀧 瀧のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 田 田のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 蕨 蕨のうらなひ

一 土 土のうらなひ

○雷九カシ林ニ百神鳴ハ面也云々

○神ノ名ニ付テ打鼓イハククノ名ニ付テ
ト云フ新式タマキト云フクノ神ノ名也

○打鼓

○南河ニ百神ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

○打鼓ノ名ニ付テ打鼓ノ名也

る梅とむらさき入る種とわしむるふ
えとし又洗種といふ事不とむらさき
一洗下後ふ葛餅郡二室の里のこせはさ
又夫本紙のむらさきのあをせいですと
志のこはさよちししとあ

采葉云紀伊牟婁郡の早稲之南国丸

一六田の浪水也

一六の花名も西し仍

一六の尾天高し星也志意ハ西儀云々

一梅文家甚し四月上旬又十一月同日

一梅壺うらりしとふし壺同。其の梅一の肉

一梅唯一紅梅一を赤一を梅お葉の内一は口

一彩式かまき梅一紅葉一一花さうのおり

一梅は花おく外も其の梅をさ

一木ぬの花を梅けしさ

一花は梅けし梅は梅けしと梅入玉
梅り梅りたふまし梅あさふしま梅さし白
木文又さし三ツ七ツ梅りまると
ま後遊をんま

一梅の花を後まきし梅お二日

一梅よきく香けし梅もまり

一梅雨やぬきし香もさ中彩式又さ

一彩式と用し宗養白ふ日ぬの外れ

一こもわわ泥也し梅田の内ま梅と

一夕二の外し唯ぬ今白面の役とて梅お

一麦日暮し細三白け白け行つときますすわ

一梅お輪春園あ人ま梅お二百幸同か

一席田梅山附しさき

一延唯一法席のた一位早一位上三位早字

一まぬし詩の席美の席局の席中の席

一皆法席のた延の外梅庭か

一梅ぬ吉延赤延紅延赤延紅延赤延紅

一ち人のあぬやの白延又延又

一也但大方まんぬ彩式かあおのま

一弟延梅あへま延早延ま弟梅のたま

植木おのりんあふんとと夫木衣笠内を
刊すは秋よりや早稲地りせのあつと
けあは植木よは印苔は定いあつとて植木
あつととけしととあつとと定いあつとと
あつとと白

一 是は古名西し仍

一 島内村、乃雨西の^{ムラカ}日暮雨^{和名} 難名
時節よあはを花をよ海をよむむととあつと

一 其四月秋月未八月のあつと

一 村字あつと村、あつと^{日本}

一 村字あつと里あつと日し里の村あつと

一 村一しあつとあつとあつと

一 村松松村あつとあつと村あつとあつと

一 乃岡折くあつとあつとあつとあつと

一 群村あつとあつとあつとあつとあつと

一 生あつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつと

^{ムラカ}竹族^{和名} あつとあつとあつと

一 ひとあつとあつとあつとあつと

一 社系難くあつとあつとあつとあつと

一 植いあつとあつとあつとあつと

一 可あつとあつとあつとあつと

一 荊棘^{ムラカ}難くあつとあつとあつとあつと

一 乃^{ムラカ}サ次^{和名}あつとあつとあつとあつと

一 口津難くあつとあつとあつとあつと

一 二白也あつとあつとあつとあつと

一 む^埋あつとあつとあつとあつと

一 埋井埋木の内あつとあつとあつとあつと

一 埋木植あつとあつと

一 馬一駒あつとあつとあつとあつと

一 驛^{和名}厩^{和名}日^{和名}棘^{和名} 餘^{和名}別^{和名}あつとあつとあつとあつと

一 外あつとあつとあつとあつとあつと

一 生あつとあつとあつとあつとあつと

一 一のあつとあつとあつとあつとあつと

うもよふまゝのたゞの葉はたつとわよ
ゆも二つし 壺うのうたふふ白詩百春云
ふりるるけふふとふとふと
陸奥の諷刺也

一 鴨坂京秋し七月止り之紙中名し

一 鴨野夏六月止りし水邊し紙付く焼火

一 鴨野くふけし紙付く紙くねあふ

一 鴨野青野紙し

一 宇治花屋に秋しふを在るし

一 宇治の川邊の山に秋し西の川邊の山に秋し

一 臺上五心持し竹の臺に紙を折し

一 卯杖まきし卯桃同色し二白も可成り

一 卯花あし梅枝ても多し

一 卯花月水月と白紙の月し夏の月を

一 卯花月水月と白紙の月し夏の月を

一 卯花月水月と白紙の月し夏の月を

一 卯花月水月と白紙の月し夏の月を

一 卯花月水月と白紙の月し夏の月を

一 北ウラカク字心人傳ねん不常ト世世のえ

一 優婆塞ウツサエ天女し人傳し

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

一 管一ウツいすよててあうくいすの

- 一 衣如懸鷄 又方与勝覽上陳軒衣下有
- 一 魚のたぢりくし熟虫のつとまるとりく
- 一 魚とくもあたり 鱗入を欠細いけを
- 一 鱗 うろつ生れたる魚の由名を熟とる
- 一 始おし
- 一 空貝水きく生れたる魚の由名を熟とる
- 一 うつを貝のうろつ生れたる魚の由名を熟とる
- 一 二つとる
- 一 魚の由名を熟とる
- 一 うろつを木柱をいしりてまるとりく
- 一 うろつを木柱をいしりてまるとりく
- 一 浮き折し甲のつらつら折し肉を
- 一 ちりけし肉をまるとりく
- 一 二つとる
- 一 浮れ一色しりてまるとりく
- 一 一方高きとる二つとる
- 一 うろつを木柱をいしりてまるとりく
- 一 遊ウツメ女メ根ネ
- 一 遊世ウツメ由名ユナ二つとる
- 一 浮き名浮のまるとりく
- 一 浮木 水也 水柱も浮木も浮 西本二つ
- 一 不フ直チキ 又 槎セ 和名 張チキ 鶯セ 兼チキ 槎
- 一 浮良のまるとりく
- 一 浮石 奥列 山花 水也也
- 一 浮き名浮 海河 山花 水也 野二つとる
- 一 只ウツメ有チキ
- 一 浮ウツメ難チキ 花チキ 夏チキ 五月 始チキ せうチキ まるとりく
- 一 海ウツメ唯チキ 一名チキ 二つとる
- 一 又神の海 床の海 後の海 二つとる
- 一 海ウツメの海 床の海 後の海 二つとる
- 一 海ウツメの海 床の海 後の海 二つとる
- 一 海ウツメの海 床の海 後の海 二つとる

所系しわりのそらなしし ねまの海神の
あやしのおとろくし

海、深面し北

海を、深付三

浦を云く教日面ももる人名おん日

浦玉園多也し 陸足波戸の目おし

浦風二浦、風好又又又

浦波一又浦波好有

浦山顔し又又又

浦子あもきふあ又又又

浦衆も日おのゆし

名をの浦日面もちをそ又

うげ 水辺の用なるし 過又水回せ

うわく 法又又又

うらな 浦ふたぢ又又又

唯一又 稍閑又 小宵柏説

うら 村上二白うれ日又又又

ウケラ 木の花 和名ヨケラ 白木花 虫花 秋八月又

うら 尻ぬ物又

うら 臘梅又 合又

うら 凡作人傳又

植 草あふても唯一又 木又玉又 樹

外、田植し又 花又 花又

田植し又 子又 子又

うら 字折也 唐名又 唐名又

うら どの唐名お二白 羅紗又 綺

うら 埋又 埋又 埋又

うら 埋火又 埋火又 埋火又

うら 打、字波又 打、字波又 打、字波又

うら 折又 折又 折又

うら 折又 折又 折又

うら 折又 折又 折又

うら 折又 折又 折又

うら 折又 折又 折又

一 うち正打打モ始モ初モふねし卒尔ウチツケ

一 うれし唯一五玉

一 うくる折し受請物等々可用

一 假ウチ寢子采抄うねる根等々又方巻し

一 内ウチふ云中節だ二句呈ウチ無の内ウチ折

一 内ウチ後ウチ已ウチ面ウチ是ウチ折ウチ的ウチ月ウチのウチ都ウチをウチしウチ日ウチ内ウチ言

一 得ウチ折ウチえウチてウチよウチまウチてウチ同

一 既唯ウチてウチ夢ウチ二ウチ句ウチ幻ウチモウチ二ウチ句ウチしウチ補ウチ足ウチふウチ短ウチ玉

一 うきいウチ、ウチ総ウチ角ウチ向ウチ女ウチ句、

一 移折し遷寫移ウチ字ウチ同ウチ西ウチ呈ウチりウチりウチ

一 移ウチ四ウチの内ウチしウチうウチうウチよウチよウチ二ウチ斗ウチをウチ

一 月ウチしウチ日ウチよウチふウチ名ウチ移ウチるウチをウチ玉

一 毛ウチのウチ移ウチるウチよウチ三ウチ年ウチのウチうウチうウチをウチよウチふウチ向ウチりウチりウチ

一 一ウチしウチこウチ折ウチしウチ花ウチ変ウチりウチ二ウチ衰ウチ日ウチ采ウチ抄ウチ

一 日ウチのウチうウチうウチハウチ映ウチりウチ字ウチしウチ

一 遷ウチ、ウチ左ウチ過ウチ不ウチ修ウチしウチ

一 一ウチはウチ一ウチとウチ、ウチ移ウチ向ウチしウチ鞠ウチるウチまウチねウチしウチ移ウチ替ウチ

一 五ウチ角ウチしウチ暮ウチをウチうウチほウチしウチせウチよウチまウチしウチく

一 牛ウチいウチくウチ根ウチしウチくウチもウチまウチ物ウチくウチ也

井

一 田舎中ウチ二ウチ句ウチ鄙縣ウチホウチ面ウチもウチ庭ウチ瓦ウチ折ウチ尺

一 田ウチ不ウチ短ウチ五ウチ無ウチもウチ女ウチ短

一 田舎ウチわウチりウチいウチいウチ水ウチ流ウチ

一 井ウチ只ウチ一ウチ折ウチしウチ呈ウチ名ウチ二ウチ又ウチ可ウチ有ウチ花ウチ香ウチ井ウチ板ウチ表

一 井ウチ庭ウチ井ウチりウチくウチけウチ外ウチ、ウチ田ウチ井ウチもウチなウチしウチ大ウチ井ウチ面

一 井ウチ也ウチ記ウチ折ウチ用ウチの外ウチしウチ井ウチ、ウチ女ウチ買ウチ、ウチ向ウチいウチ外ウチよ

一 井ウチせウチくウチ、ウチ大ウチ井ウチ、ウチモウチ女ウチ句ウチしウチ井ウチ磧ウチ堰ウチ

一 井ウチ、ウチ塘ウチわウチりウチ折ウチしウチいウチきウチしウチ堤ウチとウチ云ウチし

一 井ウチ、ウチ里ウチ渡ウチなウチしウチ水ウチもウチ足ウチ手ウチ、ウチ西ウチ折ウチ、ウチ又ウチ句ウチし

一 守ウチ宮ウチ井ウチ、ウチ二ウチ句ウチ守ウチ、ウチ折ウチしウチ甥ウチ、ウチ藻ウチ塩ウチ草ウチ

一 野と焼くは、極むる野火同

一 此の法は、難く極むる二句

一 暴風 和名風折、又句野に命を二句

一 此の字法は、句わく二句偏る為呈

一 類、暴風從上下也、字彙、盲風ヤマト

一 月令仲秋、有亡百、暴、通死

一 残、余波ニ有シ、折る、二句

一 折る、冬也、折る、季持、折る、折る

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 残菊宴十月五日

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 折る、冬也、折る、冬也

一 法乃水、流ハ、流ハ、流ハ

一 内、但、又、又、又

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

一 法、乃、水、流、ハ

有り申す子等の新たる事と先朝の御水
判法は補云々をいふと朝の御水や差障り
侍人上等

一 生果の御折呈御三方を御覧
ゆるき打紙いり呈暖も去られ御折

一 生果の御折呈御三方御覧
日の生果日の暖の御覧も御覧

一 後折しと申も去りし御覧
好まぬ御

一 後せ、おきと御覧の御覧
後の折、別き御覧

一 生果の御折呈御三方を御覧
入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

一 望、入を了しと申も去りし御覧
望、入を了しと申も去りし御覧

枕

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 大原地奈土子二月上卯土月中子

一 親子恋 人倫の親より子より一方を
恋ひし 親子一方を恋ひしものなり

一 親をくもりし子 育生たれ親又可有
親子くもりし子 育生たれ親又可有

一 夫非ふ川舟 天川の舟にたふす
如ぬし 舟にたふす 天川の舟にたふす

一 男一桂 男をくもりし一桂をれあまき
雄 男をくもりし一桂をれあまき

一 郎又まね 男麻郎面 男も同
牡鹿 和名 牡ハオケタモトヨム字

一 男山 男を面 猿の男をくもりしものなり

一 鬼 ぬきた 漢文に云はれしものなり

一 鬼志許草 花は花なり秋
又云一 ぬきた 折し松の尾葉一雜く

一 竹の尾葉 同く柳をりしものなり

一 柳ちりふ木 木を龍もく也 桐楸楢
推拍柀檀木皆散しりとは肉をく

一 秋こく個人ハ 女名の尾葉をくもりしものなり

一 秋の尾葉 玉かじ尾葉をくもりしものなり

一 尾葉の毛 秋にぬきた木 同く名中のものなり

一 南都やうと云仍 櫛の毛はくもりしものなり

一 櫛の毛はくもりしものなり

一 けりおんといふ 林をくもりしものなり

一 尾葉をくもりしものなり

一 尾葉をくもりしものなり

一 花盤木の扇葉其く散日き、松の扇
葉子散るるれ

一 扇葉子扇推扇葉子し折る花扇の
面く扇葉子苦草のちる面く

一 落の葉子五句也 日日法各一也
ちるもおれく不短く山流も日

一 扇風し扇し二もあし

一 扇葉秋し八月入
を扇葉も懐く扇考也三句葉子あり

一 扇て短分貝し葉子あり
潦倒ヲト自良 踏踏目才子傳 郎當

一 衰ヲト只一之非也懐く
秋唯一燒糸一後秋二内は但日葉
二もあし後秋も秋く芦花西し 呈はく葉
まあ

扇のなにも所よりく一勢之よま句
遊波のまハ 伊勢の後秋 秋海々々

秋一他事、後秋を燒糸の内二也也

○後とち一小江浦やし不短もる秋ハ芦花也嫌
秋中凡体二句葉子下下明燒糸も凡体

二句し字半ハ凡子付れ也
○秋の凡日あハ短短く當代不短也意

一 晚田ヲト畑し植わ、二句とく秋、二句て短由
意也定 晚稻 和名 遅稻 程

一 澤瀉ヲト其く水皮く
思草植わく秋し思五句葉子也

○定の夕あし式のうわも春
新朕の事く 尾むりしもの世ト定あて分

一 思字五句也 秋の思ひしとてちるま
之字のちあわし思ひしとてちるま

一 二わとるし、二句し不仕事へおれあつり
二句まき一也

一 思ひのちあし、二句し
思ひのちあし、二句し

一 因みし玉名之方玉名、東御海鏡世
かこ二方玉名、名所二方し伊路浦々も
玉名、方し伊路浦日か浪海鏡、方^幸

一 玉名、中か方玉名、二方し

一 國、只一破玉又玉名、

一 因十原し方、玉名し折紙日

一 玉のたもけ、位短、玉、玉、位、短、也

一 因拙人、幸、人、備、山、名、可、玉、拙、也

一 久米、海、の、橋、山、名、久、米、の、名、橋、日、か

一 船、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 然、此、船、山、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 鞍馬、山、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 羊子、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 續、余、續、云、某、日、日、一、切、の、羊、名、と、い、ふ

一 云、某、日、日、一、切、の、羊、名、と、い、ふ

一 月、唯、一、月、の、日、一、切、の、羊、名、と、い、ふ

一 陵、の、内、一、花、名、と、い、ふ、一、月、の、日、一、切、の、羊、名、と、い、ふ

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 云、二、方、の、名、久、米、の、橋、名、久、米、の、橋、名、

一 雲飛の庭 飛ぶ鳥の九重もよ折旅の庭
し日 只中ね 庭の折し 雲の庭し 只の
庭の折し 雲の庭し 只の

一 雲のよ人偏し 庭の折し

一 畔 田の界へ又中ねを植わす 庭の折し
く 田の界へ 玉田は 庭の折し 田の界へ

一 葛 秋の庭へ 庭の折し 庭の折し

一 首の庭よ 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 秋の庭よ 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 庭の折し 庭の折し 庭の折し 庭の折し

一 羊の衣 羊の袂 素門の衣し 曲儀のぬん
一 羊の庭 羊の庭 ぬん 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
夫木衣笠内大臣

打ちのいき 秋のいき 羊のいき
羊のいき 羊のいき 羊のいき 羊のいき
羊のいき 羊のいき 羊のいき 羊のいき

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
折とも入面 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
入て有植 羊の庭 羊の庭 羊の庭
一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
草の香 羊の庭 羊の庭 羊の庭
一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

一 羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭
羊の庭 羊の庭 羊の庭 羊の庭

大和流... 和歌... 又法... 山科...

一 山科宮... 山科... 四月上巳

十月同日... 山科... 春日... 興福寺と

山階寺と云ふ

一 山ノ字... 山陰... 山ノ字...

山ノ字... 山陰... 山ノ字...

一 山際... 山際... 山際...

山際... 山際... 山際...

一 山陰... 山陰... 山陰...

山陰... 山陰... 山陰...

一 山風... 山風... 山風...

山風... 山風... 山風...

一 山ノ下... 山ノ下... 山ノ下...

山ノ下... 山ノ下... 山ノ下...

一 山ノ上... 山ノ上... 山ノ上...

山ノ上... 山ノ上... 山ノ上...

一 山ノ中... 山ノ中... 山ノ中...

山ノ中... 山ノ中... 山ノ中...

一 山ノ外... 山ノ外... 山ノ外...

山ノ外... 山ノ外... 山ノ外...

一 山ノ内... 山ノ内... 山ノ内...

山ノ内... 山ノ内... 山ノ内...

一 山ノ北... 山ノ北... 山ノ北...

山ノ北... 山ノ北... 山ノ北...

一 山ノ南... 山ノ南... 山ノ南...

山ノ南... 山ノ南... 山ノ南...

一 山ノ東... 山ノ東... 山ノ東...

山ノ東... 山ノ東... 山ノ東...

一 山ノ西... 山ノ西... 山ノ西...

山ノ西... 山ノ西... 山ノ西...

一 山ノ東... 山ノ東... 山ノ東...

山ノ東... 山ノ東... 山ノ東...

一 山ノ西... 山ノ西... 山ノ西...

一 違ヤハ五向去人水人ヤをりぬり同
折リト迪

一 思いやふ二方しやぬ海や意

一 やししぬ二中よりぬしやヤ

一 みる皆きノ字

一 やも村々やよ村々ヤ

一 や又字形合ヤ

一 切多しヤ

一 疑のやヤ

一 やハ白の中ヤ

一 病ヤ

一 海生山ヤ

一 ちしヤ

海

一 祭 夏に法社の祭ヤ

一 ぬしヤ

一 又ヤ

一 松尾祭ヤ

一 政事ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

一 町ヤ

茅の糸石文並み色はくいつまててをい
出しくよ文像白面も可也し

一 籬嶋山類水辺し色垣虎面し

色 只一折し垣、折し茅葺の色、
五二、三方し垣、面からよ、日正辰やかよ色
ちよひし、しよひし、五二、仲し夕や茅と色を
かし日

一 架木垣色、西五二、三方はせ垣し、こも

日呈 但垣二の内たよし

一 窓 戸、麻門木、面し

一 松七勺を 松沼松浦ちし、入勺し

一 松のむまし 正月非正花もよふし

花さくぬねし、まれ、正むし

松の緑雜し 緑原呈 緑三、み採、はまき

松の新葉同じ、松の若葉も若松日か、但若松ハ

若木の松し、雜し、初縁縁を合し、まき、

松のまき、はぬ、み、まき、み、まき、はぬ、

一 松のまきとまきし 植わし

松の庭、雑し、植、日、白

松のまきとまきし 植し

木まのまきと焼植わき、松のまきとかくハ

植わし、まき、わし、白

一 松、子日、二勺し

松の陰、只一上下小枝、こも、日

松のまきし 松の疎、まきし、玉

松の声、響、折し、風、作、高、松、凡、面し

松、凡、二、但、耳、お、ま、作、ま、ま、月、し、松、の、凡、と、松、し

松、凡、法、ま、ま、又、ま、ま、し

松、凡、の、夜、雨、よ、あ、わ、し、西、し、非、原、わ

但、依、向、混、合、ま、ま、の、際、わ、し、成、し

松、凡、の、波、起、水、色、し

松、凡、の、時、夜、冬、季、風、波、お、二、勺、し

松、凡、二、勺、し、凡、松、凡

松、の、火、取、し、呈、松、七、勺、し

一 ぼくは手の中のものの上より火をさせた
二 守り可也

一 守り可也 邊清抄 西可伝 壺七ノ字ニ委

氣

一 今日二時りゆるニ百今字と夜と朝を
付白もふき目次の日も短き日ニ二
とりのと方とそと短く今日のつら
りかの月やと同他短く
とる此月を名月よき事よふき中老よ空
の名月の白よ希き心わ日たのるよ
りかの月因りや一十して子知

一 煙セウきく薄物(名)の煙と長傷

短クタル此煙(水)長傷(煙)がや

惠白(水)の(水)長傷(煙)二(水)短

松林(水)水(水)の煙(水)セウき(水)の煙

は川(水)中(水)の煙(水)ふ(水)その煙(水)厚

二(水) (水)の煙(水)の

一 煙(水)人(水)の(水)短(水)焼(水)神(水)の(水)二(水)

葉(水)焼(水)る(水)此(水)月(水)の(水)短(水)短(水)の(水)

ま(水)の(水)

一 烟(水)炭(水)新(水)火(水)の(水)短(水)二(水)水(水)の(水)煙(水)松(水)林(水)の(水)短

や(水)ふ(水)不(水)短(水)法(水)の(水)短(水)の(水)水(水)の(水)短(水)の(水)水(水)の(水)短(水)の(水)

一 烟(水)の(水)短(水)法(水)又(水)短(水)法(水)の(水)短(水)

一 烟(水)の(水)短(水)法(水)の(水)短(水)

一 毛(水)と(水)わ(水)る(水)毛(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)

一 法(水)の(水)短(水)

一 鉄(水)将(水)基(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)

一 法(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)水(水)の(水)短(水)

他准之因も亦もる事ねいしとて日
お浪のりとも白濁くまてしはあふい鳥
あいろくを二る陽あめ
一 削花 春正花植物ニ句也迪

不

- 一 富士浅間葛城并用之也山名を以て
も曰玉富士川能山敷不二の裾地はあれ
可尋
- 一 不破の園山敷(不破山)万中と
- 一 伏見伏見西見と外あふ寝殿二百七
詠ふ事也

- 一 伏人(あいに)一生お一本草の折伏なりと一なり
寐眠起るるねと云草本の伏し
日姫横陳面あき又あり一山伏人の
伏一の内(演陣)ハお姫の本草の折伏
も又偃ち伏伏杖より玉外敷の伏
なり

- 一 林麻唯一名云とあれも名子の林いし事
を山足ハフモト神代上林鹿ハヤ日本万三同
林小裾地と云此裾山山本不才山陰
裾一不杖也

- 一 故脚只一名二族と但只名名内一
族ニ一を又只一名一と云と云と云
我ア里と云古折しと云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云
姫れ古と云と云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云

一 古脚、都より後、折一方、後、
向、唯、古、只、於、又、夕、し、名、二、の、古、々、名、二、の、
於、折、一、方、名、二、を、折、向、し、只、古、々、里、の、
少、半、の、古、々、都、二、百、斗、と、し、

一 後、の、古、々、十、句、の、内、も、ま、る、く、九、百、五、十、
後、乃、古、々、族、の、一、方、向、わ、り、海、岸、を、
か、し、つ、子、屋、

一 皇、后、の、古、々、無、二、百、里、三、六、句、之、頃、
吾、也、後、彼、を、と、ま、り、し、古、々、族、を、指、
却、大、ま、し、折、後、の、於、向、し、折、々、不、知、

一 古、々、折、の、古、々、日、り、二、百、昔、不、知、也、
古、々、字、奈、古、の、浦、不、知、春、字、春、日、敷、し、壺
松、の、年、ゆ、り、し、り、古、々、也、

一 古、々、五、二、二、句、〇、あ、い、世、の、お、空、付、壺
〇、古、々、本、の、後、於、入、茶、の、後、ま、た、座、を、し、三、事、あ、り、也
古、々、食、古、々、花、を、ま、り、し、古、々、の、心、を、折、し、て、を、
用、後、へ、使、わ、り、し、古、々、也、

古、々、是、も、ま、り、し、巴、祖、句、よ、り、り、
〇、古、々、ま、り、古、々、の、名、の、後、と、云、壺、夫、本

一 食、を、取、り、衣、を、也、衣、を、持、て、杖、外、
不、知、壺、ま、り、也、

一 食、の、後、ま、り、り、
一 舟、圍、し、之、船、出、し、り、舟、を、分、り、ぬ、古、々、字、
名、二、二、句、も、ま、り、一、夫、布、折、も、古、々、と、云、説
を、二、句、不、知、也、

一 古、々、古、々、後、ま、り、海、後、の、舟、清、舟、
流、取、り、舟、と、古、々、舟、舟、又、何、と、し、舟、の、中、舟、流、
か、し、二、句、後、し、後、古、々、舟、但、在、川、大、川、

り、ま、り、也、也、後、し、後、ま、り、古、々、舟、川、舟、
折、舟、折、り、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、
折、舟、折、り、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、

也、後、し、後、の、後、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、
古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、

か、し、古、々、後、ま、り、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、
古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、古、々、舟、

一 舟つりしと舟の揺り目向し不苦く

一 舟よりしと舟小波のあふを

一 舟浦舟しと不苦く

一 舟れよとの舟よりく 艦 フナヨシ

○ 柁 フナタ 舟 五白 此

一 舟木切の水皮入舟木らと水皮

一 舟よ舟木けし又舟よ新舟けし

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

○ 柁 フナタ 舟 五白 此

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ舟よ

一 ころを世心二句意 誠其ノヲ大守
意乃馬人の後凡そ其ニ有し心の約も之
心のちよのいむやと云ふもせられたるに呈

一 意馬奔馳ト有馬ノ所ニ委シ

一 駒牽 八月十日ヨリ十六日十七日十八日
と云ふは古馬と云ふは四月十五日ヨリ駒牽
を云ふ事根原 馬定ト後撰ニ云

○駒の汗報ん也

一 約の事 馬ノ不_レ委_レ 約の事 駒の事 駒の事 駒の事
駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事

一 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事

一 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事

一 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事 駒の事

○北中ノ冬九秋ノ九月二日也

一 郡の名ニ云々 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々

一 寫を足柄山敷明石足柄本足柄は云々 山敷の事ニ云々

一 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々

山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々 山敷の事ニ云々

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一 九の世 言陽ノ眞速と云々 公事出物

一本葉の扇冬く 是れ松栂の扇座を秋

一本葉の扇冬く 秋

一本葉の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一本葉の扇 栂の扇 栂の扇

一 蝶さしこころの折しおとく玉さしこころ
了し去く事始るは秋し

一 際の内幸すきし随蝶幸事同え
送るゆゑ

一 了し去るまは秋し列鳥 細木 和名

一 子の字折し甲し筆より白く松を
白くし衣は折但衣袖コロモ白く白く

つきん襖オビりオビ云オビしオビ袖オビふオビ短オビ風の道オビを
おとくしオビもオビあオビさオビさオビりオビ 田村林目

一 多りゆきし云半始る白の波り
行吹ユラケ 三管お 平の人を始りしきり

一 半洗水 汗用の外し 新水也ニ白
きりいの水なきし

一 調布 池名れ平も作ニ白ニ玉ニ折ニ
かきふく白し以外布ニ調布ニ和名

一 照天系ニ灯堂ニとニ天照神ニと
はゆり

一 了し去る河ニとニとニとニとニ
了し去るて文字ととと

一 了るやとるしとの向てるやと
しとてしむるまのまやしてとる

一 了るやとるまのまやしてとる
折は字あしてとるまのまやしてとる

一 了るやとるまのまやしてとる
も向あし唯

一 了るの内よきりかえりうりねた
えてし字耳ニと

一 了るやとるニと
了るもとるましてとる

一 入をいふ麻子マコの形しシ 呈麻子マコ 滋植シ 和名
一 梨リ 秋アキ 八月ハチグヒ 一ツ 月ツキ の形カタ 同ドウ 蔞シ 生ナ 已ニ 最トモ 但タ 夏ナツ 麻マ
一 秋アキ 八月ハチグヒ 一ツ 月ツキ の形カタ 同ドウ 蔞シ 生ナ 已ニ 最トモ 但タ 夏ナツ 麻マ
一 秋アキ 八月ハチグヒ 一ツ 月ツキ の形カタ 同ドウ 蔞シ 生ナ 已ニ 最トモ 但タ 夏ナツ 麻マ

一 馬ウマ 醉シ 木キ 花ハナ 春ハル 入ニ 妻ウメ 止ト のノ わワ せセ 花ハナ 止ト 人ヒト
一 馬ウマ 醉シ 木キ 花ハナ 春ハル 入ニ 妻ウメ 止ト のノ わワ せセ 花ハナ 止ト 人ヒト

一 わワ 拍ハク 靴カブ 也ヤ 又マタ 赤アカ 字ジ 二ニ 誤カ 入ニ
一 わワ 拍ハク 靴カブ 也ヤ 又マタ 赤アカ 字ジ 二ニ 誤カ 入ニ

一 浅アサ 水ミヅ 也ヤ 靴カブ 也ヤ 荇アサ 和ワ 名ナ 荇アサ 也ヤ 候コト
一 浅アサ 水ミヅ 也ヤ 靴カブ 也ヤ 荇アサ 和ワ 名ナ 荇アサ 也ヤ 候コト

一 浅アサ 茅チガハ 雅ヤ 也ヤ 浅アサ 白シロ 茅チガハ のノ 名ナ 也ヤ 浅アサ
一 浅アサ 茅チガハ 雅ヤ 也ヤ 浅アサ 白シロ 茅チガハ のノ 名ナ 也ヤ 浅アサ

一 浅アサ 茅チガハ 生ナ 在ニ 也ヤ 浅アサ
一 浅アサ 茅チガハ 生ナ 在ニ 也ヤ 浅アサ

一 浅アサ 字ジ 折セ 也ヤ 浅アサ 字ジ 折セ 也ヤ 浅アサ
一 浅アサ 字ジ 折セ 也ヤ 浅アサ 字ジ 折セ 也ヤ 浅アサ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ
一 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ 有ア 字ジ 也ヤ

夕月り夕の夕乃乃夕夕夕夕夕
夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

二首も月と日と夕夕夕夕夕

一 夕月一又夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

朝陽

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

春

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕

一 夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕夕

夕夕夕

窓ぬき回ると目見え
内よりあちらよりあちらより春

一 おノ字が是と逢合ニ有わいの八相ノ
字也

一 合 ちりまはわいのもちりまはわいの
合し山合と谷合を山合といふ

一 あい合と谷合山合をいふ間隙也
あいの間也

一 わさきまは米とちりまは米と様右様
わさき二意一は米一他意分て二もさ

一 ちりまは米とちりまは米と邊傍
わさき此系在米と様王但無と云ふ意也

一 わさき一方二也

一 わさきまのちりまは米と様右様
わさきちりまは米と様右様

一 集 あちち二也すう二也仍

一 赤き一朱一はちりまは米と様右様

一 ちりまは米と様右様
わさき柏葉の時にさう赤字と云ふ也

一 後 ちりまは米と様右様

一 わさきは唯也

一 流 ちりまは米と様右様又雨の流

一 夕立の流雨の流と云ふ也

一 ちりまは米と様右様

一 流先と云ふ二也先後

一 流先と云ふ二也先後

一 あちち一也

一 苗 ちりまは米と様右様
弦角人偏く不童ヤツカト云ふ也
糸のちりまは米と様右様
尼をきく人偏く人偏く
足一也の柳と云ふ一足一也の山と云ふ

松島海舟小舟の寄りし冬晴

一 澤一急一 大は度は吾情の沃を

名前の澤へ流るは伏見のはたき

一 曝井 早紀列の名を又六月細線

のあ井とまきくし可位句也

一 在年指 暮し 纏 替 小綱 早

一 在 途 舟旅の事りど括ては

望 冬 三 春 秋 の 日 て 冬 と 春 と 母 だ

二 ち 一 冬 の 冬 三 春 秋 の 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 白 龍 反 句 こと こと こと こと こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

一 寒 老 三 春 一 秋 一 春 秋 返 句 こと

飛水也之但潦水也之方と云は
是も二方也(きん)

よし女七月の桂女八月女を姫丸

一月言亦水分私女お好姫一

雨也サてしき女も女中女木の雨

わノ字ニ母

一酒 服字ニ一ももる之酒の外にまけぬ

ちあけ念ふもぬん玉酒盃中飲醉

邪しき夢を四をい外に中なる一を

士黒にわ但方一もおん出るとて

ニ二邪一と

くむきよまてけ多てくけしるおまき春

酒少類ニ宴而しむね米のえんを

一酒殿五不姫律御禁裏ニ酒ヲ

さしひきの教えがしし月也ま

まらけ天系一ニ百水方一ニ百也楚

他季の年月と云ふ月也一ニ百と

一毎ししく水いさむまきとるん

一肴 酒の姫もき私藤垣の二肴

来じしと和名も名入漢酒者と

又夫中一野砂の歌也

とを名ものらとら肴也て後り人

とをわとえんやト有

字彙曰凡非穀而食皆謂之肴

一 笑るるく友笑るる肴味是る

一 寂えく賑えく一自えるもさくオキ

一 不登し什

一 寂園休けしニ百名の相と姫目是

見や姫く之籍サレ説文覚寤

一 是さく研の礎又を折し向く

一 私語多く水介し呈言向し私言氏也

一 情進百十六

一 八上と月二万まじ
 一 ざしと月二万まじわらぬ同なるまじ
 のおし
 一 ざんらうに中がねの同なるまじ
 のんし
 一 さんちと月二斗他世へさへさへ
 さへおまふおまふおまふ有る二斗
 さりけなきさわらけなきと二斗
 さるりぬねし服白小き事身持の
 さ又字ねぬさえさけさ
 ささしめさ二万まじ中さへ
 不短し

幾

一 小祭 十月下旬に笑成降附の在中し
 名二、二万也南京の誰し
北祭、本所、日折、
同作、古交、南祭、
誰れ
 一 小野祭 秋八月四日
我がおのほりわらぬ集まると白林し
 一 小祭の事し
 一 小集 風とさうとさう
 一 小行 厚まじ
 一 紀伊海冬とて 固名二万まじ
 一 清入 実水也し 寺日法久考あふ
 一 不才 新式 出立仍留派白花をね沈
 とす
 一 清滝 小水也し 又二の滝をう
 一 清 物多二斗 九月廿二日 草月日
イハキヨキ
 一 清 又を法也し 但月日の
 おう結ての打ちし 甚るるを
員

養

御新 正月十五日

御修治 三月八日一七日也

御射山祭 七月七日

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

御新 初秋之事 いづれの事

○天子の捧およミキト云其外ノ年貢ハツキト云

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

○天ノ

一 南宗 三月中旬午る後水陰附ふ
名所 少紙燈下。南宗と名所曰は
南字真又と

一 吉の海 濱底竹事 ありおむぬの
おより竹事と云ふゆゑと云ふ

一 湖 北石川の水の流るる所

一 水 水取と云ふは水取水字と云ふ

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水 水取の形より大川字入して日本
水驛 水取の馬の角の水をぬく個

一 水葦の園水葦を山敷く非也
羊角也九葦の流折替し
あふきのをのをくわすはまき子ら初し春

一 九葦の流葦折し流すとい不姫冬
二与あふきし中しきり

十載か

あふきとさかきりし出はれて
世きらゝぬわの流りりり 葦

一 汀 唯てし神し水と葦葦
こぬきと 用し汀ふ折 葦と有

一 漆 唯一名て水子と姫春枝の漆
自在ゆきと 仍きい能水也袖の漆

小中の漆をく名く能皮の漆をい
漆 説文水大所會也漆漆別多之不
可用

一 山 谷折し能る冬
宮 神祇三皇居ていつ其内元
名く又名とて人いとい可能く神祇

を大分ひりぬ白の付白しとい
定了といとととと 折門をい 経
加也

○宮本社寺也く先倉依時る也 壺

宮本社寺也く先倉依時る也 壺
宮本社寺也く先倉依時る也 壺

神宮 都面 空の九重大内
古白姫社面

宮仕 宮面 都面 九重 大内
宮城野 宮面 都面 九重 大内

○大城系也とて壺

一 都 唯一名所一説二所也
二とてて不也とい月の都也といの都内
白也一又可有也

一 園 都の府中も百九重なりとい

一 國をよみて一己とて中をいふ

一 みづけ 雑く水思はほよむてむ

夏をりてくちなはな云 三稜草又

莎草^{シクサ}也。水栗と云ノ略ん意

一 又よき春は他春の秋はまの意

見字女名をくはるん休んて或

如く見録と目見と名宛るん

月と云く見と向と云むいめ山を

又んちきい分てしを望しと云

そし又んちきいを言 試顧し

云く見ま見え女名

一 又お先ん或は他観^{ミマ}はまを

アわとらん 醜^{ニクシ}口あ

一 又別ぬ山浦年しね結

一 又ととやしとととと

一 又候しとと河あぬま

一 又る。亦候も分る始と他あ

新あの人しんんもろろ

灯の教云サ紙一と月とをとん

一 又んりて

一 又くしてりて

一 又ゆり二個百韻と白花の

道^{ミチ}女名と路^{ミチ}女名街九折坂^{ミチ}過

一 辱^{ニヅ}那と名と名^{ミチ}活^{ミチ}字の不^{ミチ}女

道は院不源春

一 又ふりけし法二とし他竹あ

一 又ふりて法入る文とし女名と字い

一 川もも

一 又むけり車何むとて

一 道は積りしをし打撃し又んりて

積付る白不若也

一 又女名し又んはゆい之

一 道は清美とらむ

花——玉女冠乃敷く美をさす
（支那）

一 妻取ふく只一を片妻の敷く人の妻

一 白四し白きし因し自ラ四しとらふらふ

一 白髪も正衣し本條のやうに白髪も中し七

枚むの折すを

一 白くむ取分内分しとらふらふ

一 白髪 迷懐し志を

一 白髪 迷懐し志を

一 白尾乃髪を春く終尾同妻の折すを

一 拂し春の髪を春く又春ふらふ白髪

一 二三枚終とし又一脱妻の髪を春く

一 去身の髪を折すはとらふらふ

一 持と終とし白髪をさすはとらふらふ

一 白髪のを折生敷し

一 白川の雲山敷し山城肌後の白川の

水也しとらふらふ

一 白洲 産むはとらふらふ

一 手ての山衣傷し死天山 採折

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

一 厄平の山 衣傷し生死の端し

神書

一 細竹並く竹がすくく白葉を
三の尾又をまの尾に別し

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
灰いし秋

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
竹節小雲風を中秋の葉はゆる葉の由り秋
吹凡と云

又本 秋まぬし竹の葉をゆる葉の由り秋
三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋 後秋

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とんちんちんまじりありし三の尾より秋
てんちんちん

一 竹節即東を凌晨は去細竹目小竹之眼
後止むし其し去まきこわく西風
後とまきこわく西風
日おとけまきせせ山の内ごとく
うらふふをよき其し

後とまきこわく西風
後とまきこわく西風
日おとけまきせせ山の内ごとく
うらふふをよき其し

後とまきこわく西風
後とまきこわく西風
日おとけまきせせ山の内ごとく
うらふふをよき其し

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

一 三の尾より秋の葉はゆる葉の由り秋
とけまきせせ山の内ごとく
とけまきせせ山の内ごとく

あはれし秋し輝の附やしき用し秋の附
と降しし一星雲ミシ

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

一 秋の附をし秋の附し秋の附し秋の附し

をきし秋し入ら秋し寸くかき内仕

猥俗字

麻ミ枝大く麻と名時やまま玉

麻ミそまらふ小時玉玉

麻ミの毛の星ニ毛の麻をよむた

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

麻ミと竹タケ

一 ちんちんをふ依る打紙はる

一 験唯てしなをうし面におのろしをし

一 ちんちんをうしをうしをうしをうし

一 指南一し道守日本

一 ちんちんをうしをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうしをうし

一 如顯也又明也灼然平明也照也

一 知ろをうしをうしをうしをうし

一 ちのちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうしをうし

一 凌唯一をうし

一 果二程有九果をうし

一 沉水二程後那をうし

一 詩欲面をうしをうしをうし

一 不極外をうしをうしをうし

漢和ニ有他唯之奎

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 注連 祇祇し田のちんちん

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 用 静鎮水画し

一 陰唯てし静をうしをうしをうし

一 波のちんちんをうしをうしをうし

一 ちんちんをうしをうしをうし

一 賦山をうしをうしをうし

一 け外をうしをうしをうし

一 人倫と人倫をうし

一 け外をうしをうしをうし

一 神祇をうしをうし

一 日ニ月次の月抄賦也

一 日次の日ニ米月作しニ与

一 日新と二百日の新しニ至日新をよみ
米日不嫌又云付白也

一 日ニ昨日今日明日とて付てよみ至二日一日
付てよみ同日日二日をいひ鳴るをよみ付て
かゝるを付るをよみ

一 日の水たはふと波中走いとよみ

一 日のふたふた日のふたふた

一 日來日よむ白也

一 日ニ日相よき不也

一 日周るに高向三信附とてよみ

一 日年名高とてよみ

一 日蔭のふらふら神御とてよみ少系の時

一 日つとてよみして他とてよみ天香山之真坂樹

一 為野曼以羅羅為千羅

一 日既秋と採折し採畑作と秋

一 夕系不採と秋と田とよみと不嫌

一 日下りの高一人伝杯とて日新は

一 截虫とて似蟬而小也和名

一 人字たるとて君と伝とて

一 他人傳

一 他國非人傳人ニ与いを付わ

一 非ニ一佐係飛格飛とて一人の飛

一 以良海水也中非山敷

一 いとよ酒曼しと醴

一 光天系とてとを付しと光の陸とて

一 公与の内之月のとてとていを光の心とて

一 光ニ光とてとてとてとてとてとてとてとて

一 と日んかりし程とてとてとてとてとてとて

一 一と

一 重綿の秋

第六 秋の衣の重綿

一 子西

一 子西偏いさくいさく偏いさくいさく

一 草衣 一文字の草衣

一 向一文字の草衣

一 永水

一 系水

一 系水

一 系水

一 葉の丹紅 一葉と丹紅

一 夜松夜

一 夜松夜

一 夜松夜

一 夜松夜

一 夜松夜

一 夜松夜

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 枇杷花枇杷

一 展風 風ニ方外の凡折日

一 紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 いれ 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 別 肩中日本

一 比 礼振山 礼振山

一 引 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 琴 渾牛 渾牛 渾牛

一 川 板田 板田 板田

一 板 面し 打板 打板 打板

一 流 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 いや 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 于 几石 几石 几石

一 于 厚 厚 厚

一 夕 洞 洞 洞

一 日 方 吹 風 吹 風

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 い 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 脚 骨 骨 骨

一 い 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 花 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 東 唯 唯 唯

一 間 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 い 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 鄙 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一 衣 衣類ノ紐 衣類ノ紐 衣類ノ紐

一毛

- 一 赤子神木の敷しうはひ物しきく夜ふこ
人傷みぬれ子とのゆり折し幸わつらむ時
南条ふすまを先少なきをせうあふまき
赤子二こころてさる赤食に可ぬん
望月の約名念の約をぬれと物まのんぬ
秋まきくどくし年月より其はか死
光那とあしひて其はか死其はか死其はか死

一 最上河入のからこころし

一 門目園水思し

一 ともあふーまきし屋むる名其はか死其はか死
りあふーまきし水思し其はか死其はか死

一 本林唯二名念てし松松を身ま

一 松林赤かま松松を身ま

一 川朋小の陰春し

一 守田 徳物其はか死其はか死其はか死其はか死
のねり其はか死其はか死其はか死其はか死

一 守ノ字人偏其はか死其はか死其はか死其はか死
那し其はか死其はか死其はか死其はか死其はか死

二の介其はか死其はか死其はか死其はか死
護其はか死其はか死其はか死其はか死

一 紅葉唯二名念てし松松を身ま

紅葉の松ははか死其はか死其はか死其はか死其はか死
ねり其はか死其はか死其はか死其はか死其はか死
松松の紅葉の松松を身ま

紅葉の橋は能徳の能水也天象なる
夜分云々し但友色々し其極あり
二百年久し入山里の橋は紅葉あり
とくまーとわんやんやん

紅葉、秋の橋をさす

紅葉、柳を那と向本葉一葉未折山の色

山の所立回雁の流をよし折し紅葉
の赤く世の色赤の色杯へ向し赤く紅葉

紅葉、一回の色しすわ向葉の色と白
葛草のそと色し也

紅葉、秋を冬と白と好しは
乃高の丁糸くしとくしまをよる、ゆふ

紅葉、葉をの葉と白と好し不絶し又
とくしと白く竹の色とくしと白く

紅葉と好しとくしと好しと好しと好し
あし秋の葉をよむは極あり

紅葉乃同ぬ水也

紅葉、じりり秋く水也

紅葉のぬと極秋あり

丹葉あしと極秋ありと極秋あり
紅葉流しとくしと好しと好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し白く紅葉の色をの好し

紅葉、流しと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

紅葉、まきと好しと好しと好しと好し
紅葉の色をの好しと好し

一 瀨戸水色(園里同)と野に水色

一 未の松山名に極む(松ぞう)未の松山云

是(山敷水色)呈(松山)と(後)水色呈前

蹟(妙)の松山に極む

一 未持花(夏)月(楯)一角(一)

一 未字(五)与(三)楯(り)未(也)一(二)与

根(也)を(わ)田(を)し(一)二(白)

一 菅(直)一(難)水(足)外(難)夏(三)夏(五)夏(六)

乃(菅)直(一)夏(足)内(一)又(を)夏(三)夏(五)夏(六)

スケニトリ
○(サ)沙(難)夏(乃)事(一)夏(二)外(三)夏(四)

一 夏(花)可(わ)極(む)

一 菅(系)也(依)見(能)極(む)菅(系)の(也)人

菅(系)の(年)也(有)菅(系)外(一)向(し)又(去)夏

系(を)く(首)一(外)山(株)の(依)又(三)一(七)

一 秋(一)枚(の)店(松)の(門)之(木)三(心)枚(又)有

以上(一)ケ(一)人(の)枚(極)む(三)人(の)心(安)

秋(店)門(之)木(極)む(松)枚(の)門(之)心(安) 松心

一 一(尾)花(一)も(ら)極(む)一(一)一(一)上

之(也)尾(花)也(極)む(一)極(む)を(一)一(一)色(極)

極(む)一(尾)一(尾)花(の)極(む)秋(心)尾(尾)也(一)

一(尾)一(尾)花(の)極(む)秋(心)尾(尾)也(一)

一(尾)一(尾)花(の)極(む)秋(心)尾(尾)也(一)

一 本(の)花(春)一(唯)也(一)可(わ)極(む)也(一)

花(と)也(一)一(一)

一 寸(一)寸(一)竹(一)也(一)葉(一)向(一)之(一)也(一)

細(竹)万(小)竹(万)葉(の)也(一)也(一)

一 寸(一)寸(一)衣(一)也(一)也(一)沙(一)也(一)可(一)尋(一)

一 裾(野)未(也)一(山)一(好)也(一)也(一)也(一)

林(麻)不(可)分(二)也(極)一(未)一(与)楯(不)極

一(未)一(与)楯(不)極(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

一(未)一(与)楯(不)極(一)也(一)也(一)也(一)

一 棲(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

一 栖(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

一 栖(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)也(一)

つらけしきり不飽但て信白
月津し月まんのまじりま

過ノ字五白ましあくら二白仍

不進心二程馬佐醉盃思後をく

まくせ世分旬し不飽し拙意電えり

ニ白し可陽也宿執スレ宿世ロ宿縁

安唯一又山のあてをれ侍信白を信下

安形子面し言人あつてあつて二白し

すのんまう侍信白あつて分し

むじ天教し玉ニ白教ニ白し余のまは

魂の無のむ不嫌むまき玉りしまきまき

數珠念珠日むらうもあつてまき

くり行いのまふすれはあつて紅巴

皇帝大尺お整へて三及小有

皇とて大尺を女む姫一不審

まき小尺風の間に人小すあつて推

らうまきし磨字あつて其廢上讀く字

まき雨風のまき小折工姫空流

又口すまひまきまひかまの慰くまき

面し女まきまきまき面あつて又人

すこのぬまきまきまきせぬしまき慰め

ありあつてまきまきまき折工姫

又機織すまき後まきまきまき

止んくまきまきまきまきまき

まきんとまきまきまきまきまき

唯らんまきまきまきまきまき

又まきまきまきまきまきまき

まきまきまきまきまきまき

す秋名残のまきまきまきまき

春余のまき
入秋のまき

法度大極

- 一 五の字の字ニ法有り白に下ニ至但地と
介ら山に入らずの類ハ唯一人地と方合を
山ノ目の入らずと又至る外ハ唯一人法之
みり至る七の字法をてを依に松根凡
そし法小類
- 一 七の字の字ニ法を唯一人松根原を
後そし法の類
- 一 折向はわらむと七の字の字法ニ法
玉より凡一文字朱をそし
- 一 七の字の字七の字付又七の字付小
七の字付と不若依に後後依付
る類
- 一 七の字の字七の字付を打て三に法
但物よりして唯一人不若依の類
及そし又者一人の法をそし不若
七の字の内ハ山浦川里野をよまきお入

- 可分別分りおせと付入を弄すと合る
- り世を分るべきを危し分物違ふべしと云
- 前後しと入るべし但し信分付く
- 一字まわればちる小字まのわ分るべし
- 七与五字七与五字分りし世てし
- 五与七と七与五字分る二つをまて入おれ
- 一 浦松川作るとまを分るべし
- 如ら御もなき詞字二つに分るべし
- 折西施おの面を分るべし思ふまに
- 世果よりくちんぞりりるべし
- さるべしはあし
- 一 名所と名所の日字折れ字に折れ
- 大井と大井山を分るべし
- 一 字のれのあるべきを分るべし
- 各別しはあし二なり二なりと分るべし
- 濁る候もいつれを分るべし

此類

- 一 みのと字のりてし来し出りし
- 形向た字あるべし世を分るべし
- 一 字の字共てし来し終りし
- と云
- 一 四文字つ来たる折れ出るべし
- 折れぬを分るべし
- 又字はくし世てしやぬ候はしと云
- 少ししてせんはくせん言ぬれはし
- 乃教共一省同くして是ぬと云
- 一 入るべし一入るべし
- 一 同字の事一人との連なり同字を分る
- らも他字を分るべし
- 自他ニ示しと云

右之類教多有略

春聞詠し元

叱	昌叱	巴紙巴
玉	昌珠	仍玄仍
呈	昌程	什玄仲元
壺	昌陸	的玄的
意	昌億	仍春
倪	昌倪	个異詠
白	祖白	困宗因
屯	昌純	私宗春秋考
繁	昌繁	愚曰自記愚案曰

己上差合抄春君書記也

享保十九年十月書寫

○ 迪 昌迪 詠 杖 圓
 察聞之内寫之 此内春と稱スルニ
 白字春詠ナリ

連歌廿式目

一 而十句毎句は返句の賦物一合を以て
路字の賦物一ちよららし十句の因
 用一は願を返句のなかイ有

一 賦物昔は每句一とる様を
 而く名をとりて一人一名所を名下の中へ
 与り可也

一 季ふふ可也但具内他季を以て
 一月花松秋夢淡竹烟名十句を
 系わたりてとる様を以て
系わたりて月を以て
 時を以て

一 降おし降おし賦と起し
 降おし降おし賦と起し

一 系小 因

一 時を 以て 系物小用し
 杖 抄系 因 後山 系小用し

一 系小 以て 系物小用し

一名残乃表六句ありし
 此外、應安新式の如し
 明應元年十二月

右魚載自筆有清水寺

追加

- 一 生類多歎雲那しあそふ二句をいふ
- 一 花八中しあそふ二句に三日打しあそふ也
- 一 花橋日向ふふ句をいふ也
- 一 六月長月七本の月をいふ也
- 一 下句二句を接して上句又同
- 一 旅字二句をいふ
- 一 哀二句をいふ
- 一 安字二句をいふ
- 一 京物同作二句をいふ
- 一 岩山歌二句をいふ
- 一 西へ寝る京物二句をいふ

和漢式

端作和漢聯句ト出定ル也

- 一 一座一物、和漢一物、ヨツテ異名漢有
 和漢異名アラハ漢三句用和漢出アテニ連歌、
 本体ト異名トアル例也詩、漢和トニ有
- 一 二句ノ物、両方ニ宛也異名ノ外也
- 一 一詠雨ト二雨ト漢、又有山嵐ト嵐ト同
- 一 三句ノ物、和漢三句ニスヘシ異名ニテ内ノ
 四句ノ物、両方ニ宛也
- 一 空日和漢三句ニ有テモ不苦雲一方、四有テモ不
 苦ナリ花和漢二句宛也但隔番也
- 一 五句ノ物、三句ト二句ト分テ可仕、裏有橋
 ト御階ノ類 空日和漢有テモ不苦
- 一 同季同字戀恋恋神祇歌旅歌ニテ同ノ
 法、月ニ
- 一 月同季ナレハ七句去季ナレハ五句也
- 一 月和漢共ニ三句四句ヲキテモ不苦

七句隔物、五句松竹每衣等

五句隔物三句 山類、山數水辺水木草木草

居所、居所風体、風体夜分、夜分暮夕等也

只雨、時雨、白雨三句也

三句隔物三句 草木木鳥、虫降物、降物、春象

天象、ト、信算物、ト、信算物同前

五句去七句去物、二貝字、三テモ、テ不苦

弟、唱、白、平、字、ノ、負、字、ヲ、除、テ、外、ノ、韻、字、ヲ

入、二、貝、三、甲、定

面八句、内對句、一所有、二和漢、三ハ句、目

漢句也、漢和、二ハ句、目、必、和、ト、揚、句、大、目、カ

名、殊、ノ、表、三、漢、ノ、對、句、ナ、ク、テ、モ、不、苦、也

名、所、ト、名、三、句、同、名、ト、因、名、同

人名、二、句、ツ、ク、也、十、句、目、テ、不、仕

旧、字、ノ、考、漢、モ、和、ノ、如、ス、ル、也

山、數、水、辺、丘、等、林、用、ノ、分、別、有、二

漢、和、五、十、句、ツ、不、限、二、句、多、女、有、テ、モ、不、苦、也

一 漢句ノ通り字古上下共ニ嫌フ今ハ六カリニ嫌フナリ

一 入韻ノ字ニ大文字ヲ用ヘラス基ヨリ定ムル字ニテ可然殊ニ負外ノ字ナトハ早ク出スカラス

一 懐紙モウツリ行ヌル時イカウノ字ヲモホ出キ一を也安ニ公貝ノ序見ユナリ

○ 春

新正、時ノ首

暖、暄、同

山、梁、雉、也

芳、有、花、紅、日

蜻、蜓

紫、柳、也、柳、折、ハ、

殘、痕、秋、殘、原、數、之

鳥、衣、燕、飛、衣、數、也

淑氣、陽春ノハハワラフ

竹、筴、律

工、貢、茶

鷓、鴒

蕪、草

黃、柳、但、依、白、秋、モ

踏、音

全、衣、眼、鳥、ノ、衣、數、イ

○夏

新緑 新樹より

清和 四月天長和又清

霖雨 雨

茂草 草木

竹葉 活葉

黃梅

黃雨 黃梅雨

甘宜花 只難花

○秋

爽 秋身

金氣 日と

芳柳 枝支日

萍 毎貝 但可考

薄具 秋身

懸鷄 秋身 杜詩

黃落 花

西候 秋身 杜詩 西候別君 初三休下正 悲西候日

槐花

淚 秋身 杜詩 悲西候日

孟嘉落帽 孟嘉九月九日醉中風帽落

孟嘉落帽 孟嘉九月九日醉中風帽落 孟嘉落帽 孟嘉九月九日醉中風帽落

○冬

凍柳

凍探

曝竹

枯生植 三月

拾枯 薪

臘 十二月

探春 探梅日

春信 世依句

守歲

○旅

信書 信

客 北宿客之客

一葉 舟心 舟心 舟心

歸 東歸客下歸

征人

漂泊 舟心 舟心

卿夢

遠鄉

意

御溝 葉

錦字

外鳥 雀令衣

私語

連理 柳心 柳心

粧鏡

塵 世々

述懷

出處 幽處 世々

名利

浮跡 世々 世々

夜分 出仕 出仕 出仕

被 冬衣 冬衣

○水邊

一 灣水也

一 湖鏡只湖

一 釣糸心

釋教

一 禪修禪

一定入足

一 錫錫杖

○異名

一 銀行雨泊雨作

一金鳥非生類

一 霜蹄馬在霜蹄者

一 鯨鐘非生類

一 人名了人傳世不可為

○和漢新式追加

一 吹字有風之心者

一 雷雷為聲也

一 市魚生類

一 祖師非人倫

一 支那支那

一 麒麟圖鯨魚賦愛蓮

一 祝祝

一 祝祝

一 吳蜀等因名

一 龍虎鬼女

一 龍虎鬼女

一 眼鳥鷓鴣

一 眼鳥鷓鴣

一 燕春秋

一 燕春秋

一 履日蓮日

一 履日蓮日

一 蟄卵

一 蟄卵

一 蟄卵

一 蟄卵

右春閭者一派玄燠之傳書也
交道統者一人之外不可為相
傳者也

崇天明四年林權子旬

西山宗因六世

月丁庵惠經
玄

